

次期ブラウザの真の秘密を探る

インターネット エクスプローラ

デベロッパープレビューの

全貌

5.0

昨年4月インターネットエクスプローラ4.0 プラットフォームプレビューから約1年、9月のIE 4 正式版出荷から9か月にして、ついに次期IEのベータ版である「IE 5.0 デベロッパープレビュー」が発表された。IE 5はウィンドウズNT 5.0のデフォルトブラウザとなるとされ、正式版出荷は年末から来年初めが予想される。

はなばなしく発表されたIE 4のベータ版とは違い、ウィンドウズ98の発売時期と重なったため、IE 5の船出は静かなものとなった。インストールした後の印象でも、ウィンドウズのインターフェイス自体をがらりと変えたIE 4に比べ、目立った変化はない。それではいったいIE 5では何が変わるのだろうか。1999年の主要ブラウザとなるかもしれないIE 5が目指すものを探ってみよう。

注意

この記事で紹介しているIE 5デベロッパープレビューは、開発者を対象としたものです。日常の作業に使うためにインストールすることは絶対にやめてください。



▶ IE 5を入手するには

だれでもダウンロードでき、雑誌のCD-ROMにも収録されたIE 4のベータ版に比べ、このデベロッパープレビューをダウンロードするには、マイクロソフトの「Site Builder Network」に名前やメールアドレスなどを登録する必要がある。本誌のCD-ROMには収録できなかった。標

準で18MB、ブラウザだけでも9MBあるのでダウンロードする人は覚悟してほしい。

インストールにトラブルが多かったIE 4に比べ、IE 5デベロッパープレビューにはデスクトップのアップデートが含まれていないこともあり、編集部では問題なくインストールできた。ただしあく

まで開発者向けのベータ版であるため、テスト用のウィンドウ環境を別に作ってインストールするのが無難だ。

入手先

URL <http://www.microsoft.com/sitebuilder/ie/iedownload.htm>

改良が進むアウトルックエクスプレス

しかし問題点は残る

4 ペインメーラー登場!

アウトルックエクスプレスで何といっても目を引くのは、これまでの3つのペインに加えて、画面の左下に新しく配置された「連絡先」というペインだろう(図A)。ここにはアドレス帳にある宛先が一覧となって表示され、ダブルクリックするだけでその宛先へのメール編集画面が表示される。たったこれだけのものだが、たいへん便利な機能であり、アイデアは高く評価したい。

署名機能の向上

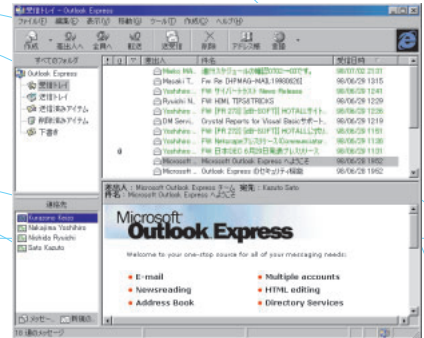
新しいアウトルックエクスプレスでは、複数の署名を作成し、アカウントごとに使用する署名を指定できるようになった(図B)。ノートパソコンを自宅と会社の間で持ち歩くようなユーザーには便利だろう。

ルールエディタ

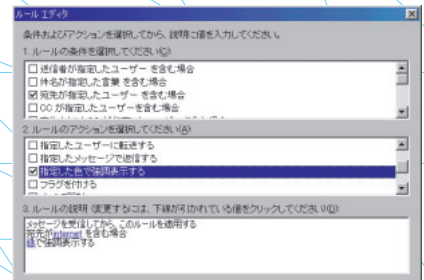
振り分け機能である「受信トレイアシスタント」は名前を変え、「ルールエディタ」となった。インターフェイスが大きく変わっているが、メールの見出しに色を付けられるようになったこと以外には、機能の大きな向上は見られない(図C)。

デフォルトの形式はHTMLのまま

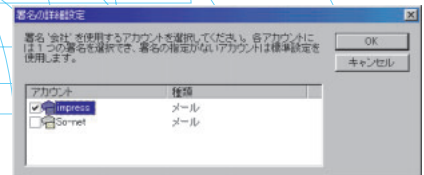
このように細かい機能向上を見せるアウトルックエクスプレスだが、初期設定での送信メールの形式は、あいかわらずHTMLのままで、初めて使うユーザーは、わざわざ設定を直さなければならぬ。正式版ではテキスト形式が標準になってほしいものだ。また、1バイトカナ(半角カナ)を送信できてしまうなど、初心者に誤解を与えかねない機能も残っている。



図A

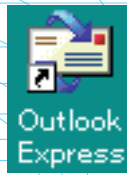


図B



図C

新しくなったアウトルックエクスプレスのアイコン



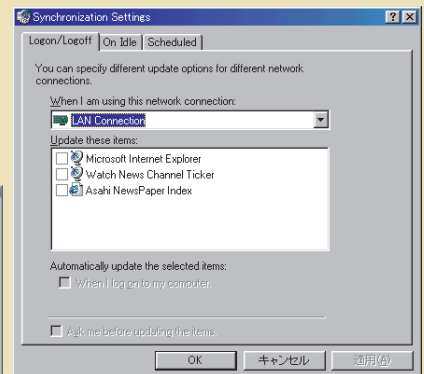
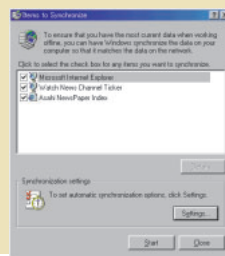
大きく変化した購読機能

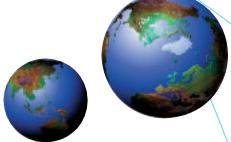
IE5では「お気に入り」メニューの「購読の管理」が「オフラインページの管理」となり、「Subscription」フォルダーは「Offline Pages」フォルダーと名前を変えた。また、メニューの「すべての購読を更新」がなくなり、「同期」が新しくできた。「同期」を選ぶと、図のようなダイアログが表示される。これは、スタートメニューから「Synchronize」を選んで呼び出すこともできる。

この「Synchronize」では、通常のスケジュールのほか、ネットワークにログイン、ログオフ

したとき、コンピュータのアイドル時に同期(購読の更新)を実行するかどうかを指定できるようだ。

「同期」関連のモジュールは日本語化されておらず、詳しいことはわからないが、IEの機能から独立し、ウィンドウズ98の「タスクスケジューラ」の機能に近づいていくのではないだろうか。





▶ ストリーミングを統合するメディアプレーヤー

メディアプレーヤー（ベータメディアプレーヤー5.2）は、ウィンドウズ付属のメディアプレーヤーとNewShowプレーヤーを統合するものだ（インストールすると、NewShowプレーヤーは削除されてしまう）。

これまでのメディアプレーヤーやActiveMovieが対応していたWAV、MIDI、AVI、MPEGなどに加え、NetShowとRealMedia用のストリーミングコンテンツが再生できる。IE 5にはRealPlayerも含まれているが、標準インストールには含まれず、このメディアプレーヤーが標準となっている。また、最近人気のMP3ファイルまで再生可能で、このメディアプレーヤーをあらゆる音声や、動画のためのアプリケーションとし

ていく方向のようだ。

なお、このメディアプレーヤーは、IE 5をインストールしなくても、マイクロソフトのサイト



(<http://www.microsoft.com/windows/mediaplayer>) から別途ダウンロードできる。

メディアプレーヤーのほかに、IE5に付属するマルチメディア関連のコンポーネントには、ソフトウェアシンセサイザ付きのインタラクティブミュージックコントロールやDirectAnimation、DirectorやFlashのプラグインなどがある。また、IE 4と同じくブラウザをインストールするだけでDirectXが同時にインストールされる。まもなくウィンドウズやIEの3D表示機能を大幅に拡張する「Chrome」の公開も予定されており、ブラウザ自体をマルチメディアの強力なプラットフォームにしようとするマイクロソフトの意欲的な機能拡張は今後も続いていくだろう。

ウィンドウズ98とIE5.0のコンポーネント

	ウィンドウズ98	IE 5.0	備考
インターネットエクスプローラ			DirectXやDCOM95が含まれる
オフラインブラウズパック			ウィンドウズ98ではIEの購読機能
ヘルプ			
Microsoft VM for Java			
インターネット接続ウィザード			
コアフォント			Verdana、Comic Sans MSなど
ダイナミックHTMLデータバインド			ActiveXコントロール
NetMeeting		追加可能	
アウトルックエクスプレス			
Microsoft Chat	DL	追加可能	
メディアプレーヤー	なし		ウィンドウズ98はNetShowプレーヤー
メディアプレーヤー-RealNetworkサポート	なし		
RealPlayer	追加可能	追加可能	
DirectAnimation			ActiveXコントロール
Intel Indeo5		追加可能	
インタラクティブミュージックコントロール(シンセサイザ)	DL	追加可能	ActiveXコントロール
VDOLiveプレーヤー	DL		ウィンドウズ98はプラグインのみ
Shockwave Director		追加可能	
Shockwave Flash		追加可能	
ブラウザ拡張機能 (FTP機能)	なし		
FrontPage Express		追加可能	
Web発行ウィザード	追加可能	追加可能	
追加Webフォント	DL	追加可能	Monotype.comなど
Visual Basicランタイム		追加可能	
Microsoft Wallet		追加可能	
日本語サポート	DL	追加可能	日本語環境では意味なし
韓国語サポート	DL	追加可能	
ヨーロッパ各国語サポート	DL	追加可能	
繁体字中国語サポート	DL	追加可能	
簡体字中国語サポート	DL	追加可能	
ヘブライ語サポート	なし	追加可能	
アラビア語サポート	なし	追加可能	
タイ語サポート	なし	追加可能	
日本語IME	DL	追加可能	
韓国語IME	DL	追加可能	
繁体字中国語IME	なし	追加可能	

はWin98で必ずインストールされるもの

は標準でインストールされるもの

大きな変更があるもの、新しく加わったもの

「DL」は、マイクロソフトのサイトよりダウンロード可能
ウィンドウズ98は、RC4を使用した

進化したダイナミックHTML

新機能は豊富、標準化はまだ先

新機能はダイナミックHTMLが中心

IE 4 とほとんど見た目が変わらないIE 5 だが、「デベロッパープレビュー」という名のとおり、その新機能の多くは開発者向けのものだ。スタイルシートや、スクリプトなどのいわゆる「ダイナミックHTML」がIE 5 の目玉といえる。このことから、HTML をウェブにとどめず、ウィンドウズアプリケーションのプラットフォームにしようとするマイクロソフトの最近の姿勢がうかがえる。ここでは具体的な例をあげながら進化したダイナミックHTML の機能を紹介しよう。

リスト①

```
<scriptlet id="chgcolor">
<implements id="Automation" type="Automation">
<property name=color1/>
<property name=color2/>
</implements>

<implements id="Peer" type="Behavior" default/>

<script language="JavaScript">

attachEvent("onmouseover", onmouseover);
attachEvent("onmouseout", onmouseout);
style.color = color1;

function onmouseover() {
style.color = color2;
}
function onmouseout() {
style.color = color1;
}
</script>
</scriptlet>
```

リスト②

```
<div style="behavior: url(chgcolor.sct)"
color1="red" color2="blue">
hello, world
</div>
```

ビヘイビア機能

スクリプトを独立したファイルの中に置いてコンポーネント化しようとする動きは以前からあったが、ビヘイビア機能はそれをさらに進めるものだ。「SCT」という拡張子のファイル(スクリプトレット)にプログラミング言語でいうところの「クラス」を記述し(リスト1)、HTML の中ではスタイルシートの「behavior」を使ってタグにスクリプトレットを割り当てる(リスト2)。

これにより、HTML の内容が煩雑にならずに

すみ、ウェブデザインとプログラミングの作業をスマートに分けることができる。リスト1は、「color1」、「color2」という2つのプロパティを作成し、タグの上にマウスが来るとプロパティで指定した色に切り替えるスクリプトだ。デザインの担当者は、リスト2のようにタグの中に色を指定するだけでスクリプトを使うことができる。

しかしこうした記述のしかたは、HTML の標準から大きくはずれることになるのではないだろうか。

データの保存機能

スタイルシートの「behavior」を使うと、データの保存機能呼び出すこともできる。フォームに入力した値や、ダイナミックHTML でタグを操作した結果を保存し、再びそのページを読み込んだときに、以前の状態を再現できる。これは、これまでクッキーで行っていた作業の置き換えを狙ったものだ。

リスト3では、「mytext」というIDのテキストボックスに「userData」という特定のクラス名を指定している。このテキストボックスに入力された文字列が、ページを抜けたときに保存され、ページが読み込まれると復元される。

リスト③

```
<HEAD>
<STYLE>
.userData { behavior: url(#_IE_) }
</STYLE>
<SCRIPT>
function SaveData() {
mytext.setAttribute("MyText", mytext.value);
mytext.save("MyData");
}
function LoadData() {
mytext.load("MyData");
mytext.value = mytext.getAttribute("MyText");
}
</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY onLoad="LoadData()" onUnload="SaveData()">
:
<INPUT type=text class=userData id="mytext">
```

スタイルシートに スクリプトを埋め込む

サイズや長さを指定するスタイルシートの値に「function」を指定してスクリプトを直接埋め込めるようになった。リスト4では、ウィンドウサイズを変更しても、フォントのサイズがつねにウィンドウの幅の20分の1になる(図)。

リスト4



XMLの埋め込み

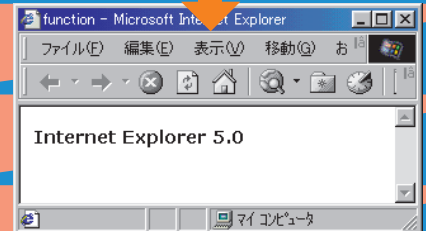
XMLのサポートはIE 4から始まっていたが、IE 5では、HTMLの中に直接XMLを埋め込めるようになった。表示するには、リスト5のように「プレフィクス:名前」という形のタグを作り、CSSと組み合わせる。「XMLの埋め込み」と言うよりも、「独自のタグの作成」と言うほうが近いかもしれない。

たず、上から順に読み込んで表示を行う。「fixed」を指定しない場合に比べ、劇的に高速化する。

CSS2のサポート

IE 4はHTML 4.0をほぼサポートしている。IE 5では、今年5月に正式勧告となったCSS level 2がどれだけサポートされたか期待したが、新たにサポートされたのは、上記の「table-layout」のほか、「border-collapse」と「direction」だけだった。この記事で紹介しているスタイルシートやスクリプトの新機能は、標準化されたものではなく、ダイナミックHTMLの互換性問題はそのままだ。

リスト5



テーブルの高速化

これまで、長いテーブルを読み込むと、レイアウトに時間がかかり、ハングアップしているように見えることがあった。その対策として、<TABLE>タグ用のスタイルシート「table-layout」が導入された。値には「auto」あるいは「fixed」を指定できる。「fixed」を指定すると、テーブルのデータをすべて読み込むまで待

```
<XML:namespace prefix="MYTAG"/>
<STYLE>
  @namespace MYTAG {
    B { color: blue; }
  }
  MYTAG:C { color: green }
</STYLE>
<MYTAG:A style="color: red">This is XML</MYTAG:A>
<MYTAG:B>This is XML</MYTAG:B>
<MYTAG:C>This is XML</MYTAG:C>
```

99年のブラウザを考える

ネットスケープコミュニケーターも含めた近い未来のウェブブラウザのあり方を考えてみよう。「ブラウザ戦争」という言葉だけでは片付けられない動きが始まっている。

コンポーネント化

IE 5が見せる「コンポーネント化」にはいくつかの側面がある。インストール時におけるモジュールのコンポーネント化、スクリプトのコンポーネント化などだ。IE それ自体も実はActiveXコンポーネントになっている。

Javaがそうであるように、必要なコンポーネントを必要なだけ組み合わせて使うという方向は、現在のプログラム開発の流れでもある。アプリケーションはますます肥大化していくように見えるが、ネットワーク上にコンポーネントを配置することでシンプルさを目指す動きも広まりつつある。

国際化

インターネットやWWWは英語を前提として開発されてきたものだが、急速に多言語への対応が進んでいる。昨年か今年にかけてHTML 4.0やXML 1.0では言語指定やテキストの方向(左から書くか、右から書くか)の指定が規格化された。

来年に発売が予想されるウィンドウズNT 5.0では、各国語版のモジュールが完全に1つに統合され、複数の言語を使用できるようになる。IE 5が見せる国際化機能はその先駆けだろう。

次期ネットスケープコミュニケーターの開発の中心であるmozilla.orgにも国際化のためのプロジェクトが置かれ、活動を始めている。

標準化

IE 4に引き続き、IE 5が新しいダイナミックHTMLの機能を導入したことで、混乱をさらに招くことが予想される。しかし一方でマイクロソフトもネットスケープも、W3Cを中心とした団体と協力し、標準化を進めていくことを表明している。

スクリプトやダイナミックHTMLの先行きははっきりしないが、まずは2大ブラウザが、HTML 4.0やCSS level 2を完全にサポートすることを期待したい。ウェブページには「何々以上でご覧ください」ではなく、「HTML 4とCSS 2で書かれています」といった表示が増えてほしいものだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp